

2 道路を取り巻く現状と課題

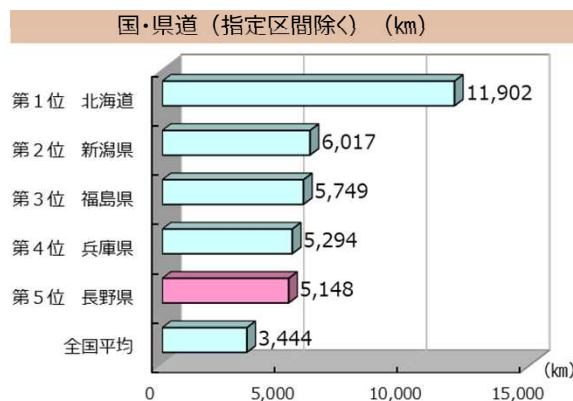
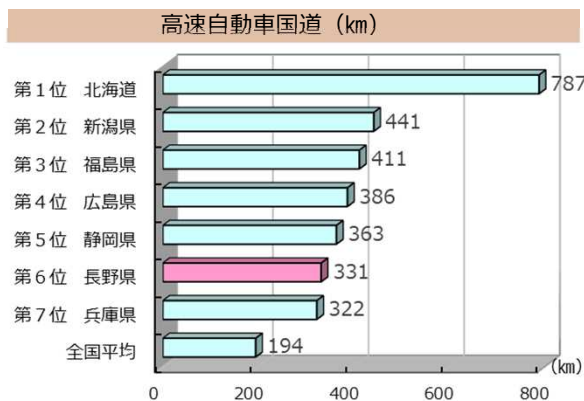
◆長野県の道路の現状

本県の道路は、道路延長が、高速自動車国道で全国第6位、国・県道で全国第5位となっており、全国平均より長くなっています。

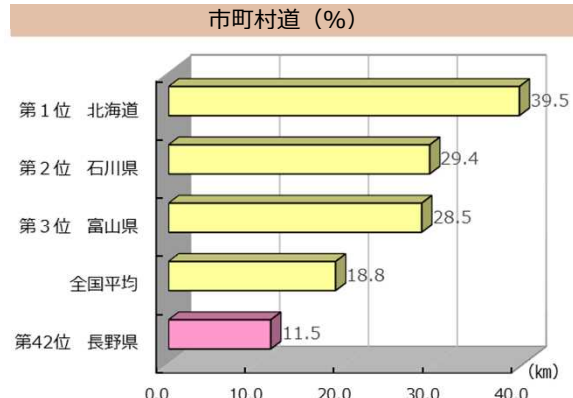
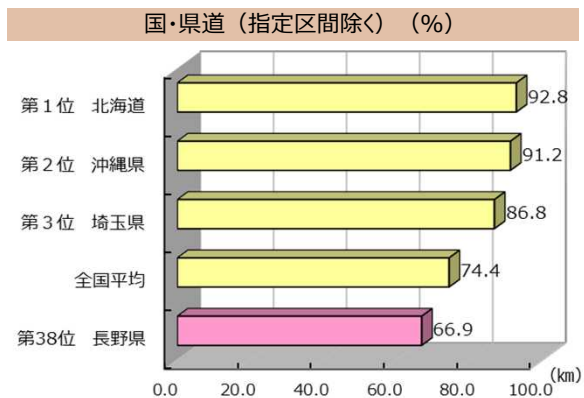
一方、国・県道の改良率は66.9%で全国第38位、歩道の設置率も全国第38位となっており、全国に比べても低い整備水準となっています。

また、人口千人当たりの自動車保有台数が全国第2位であり、本県での生活は自動車に依存していることが表れています。

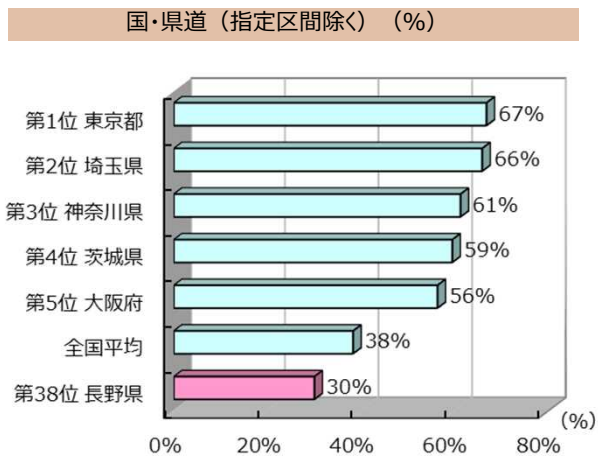
● 道路延長



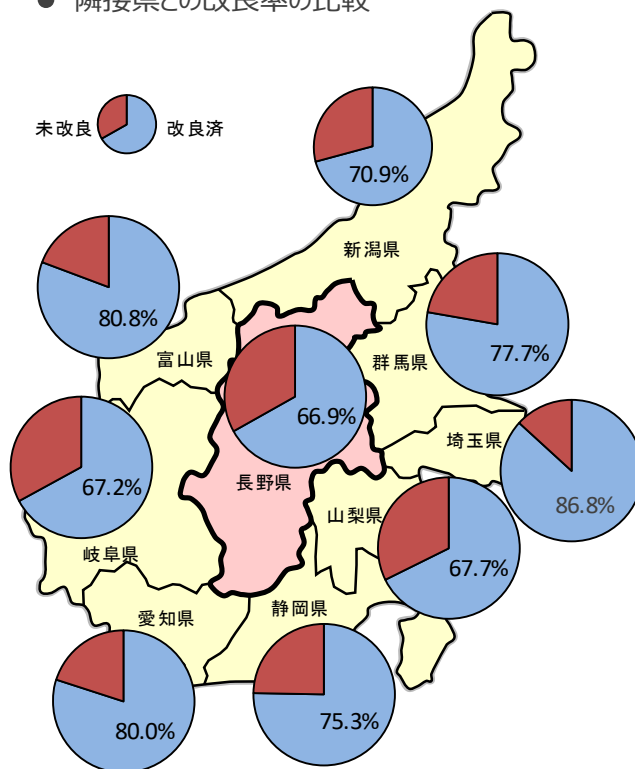
● 改良率 (車道幅員 5.5 m以上)



● 歩道設置率

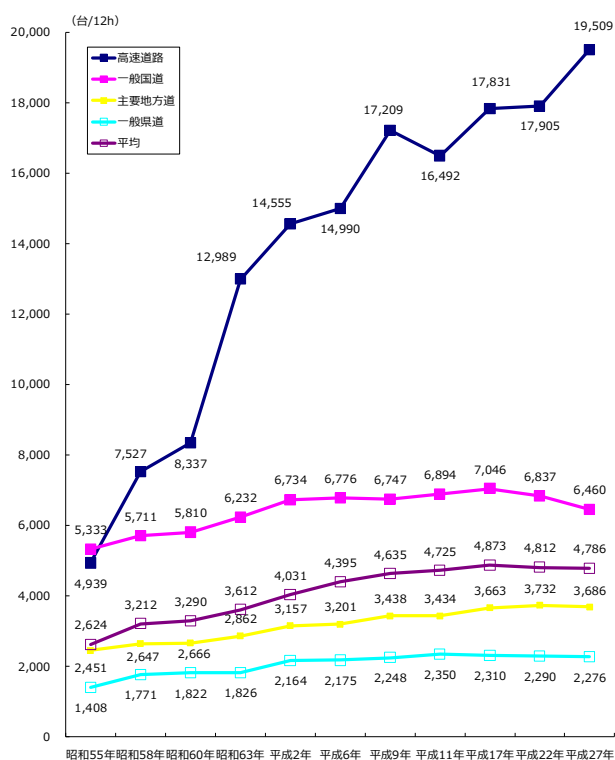


● 隣接県との改良率の比較



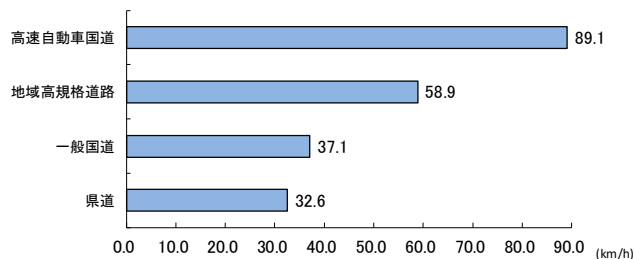
出典：道路統計年報2022

● 長野県の平均交通量の推移

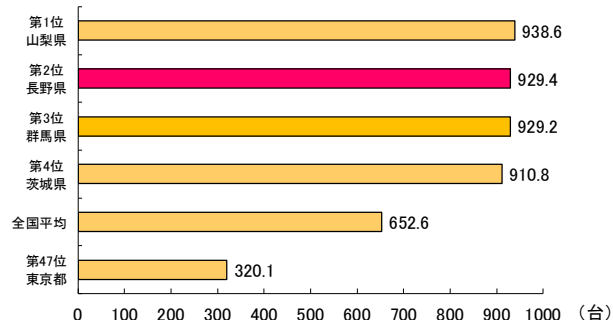


出典：長野県建設部「平成27年度 全国道路・街路交通情勢調査 一般交通量調査報告書」

● 道路種別毎の昼間非混雑時旅行速度



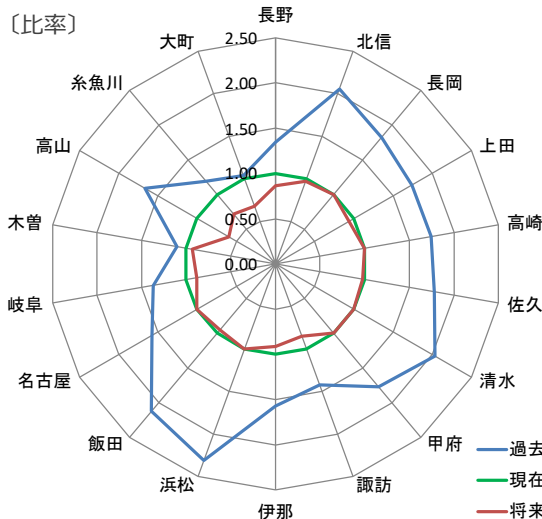
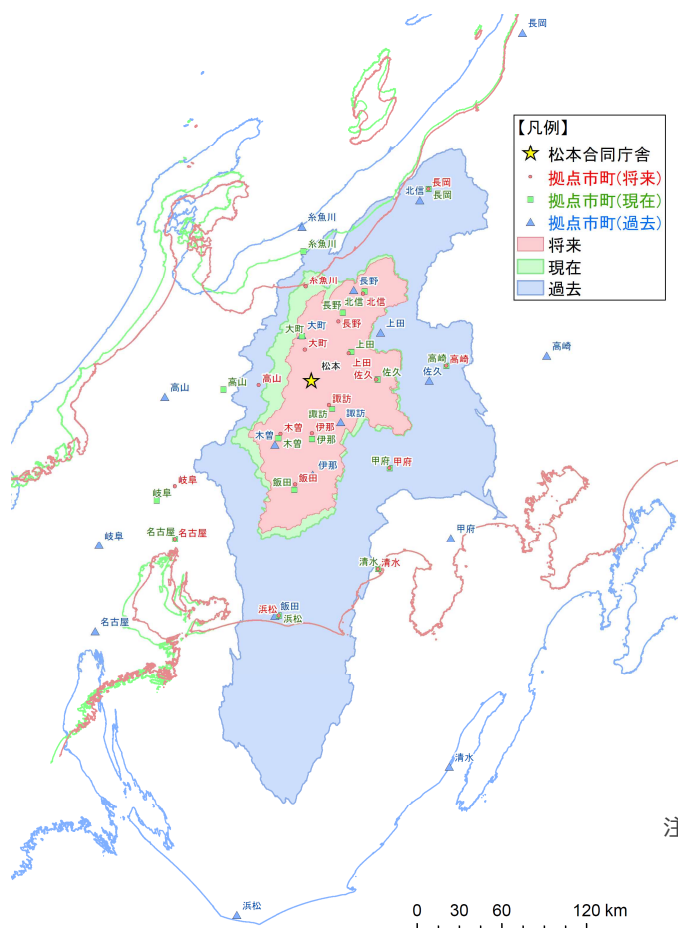
● 人口千人当たりの自動車保有台数 (令和3年3月末時点)



出典：一般財団法人長野県自動車標板協会「長野県保有自動車実勢表」

● 時間距離

現在の道路網における松本合同庁舎から各拠点市町への所要時間を標準とし、過去と将来の所要時間を比率で図示



出典：全国道路・街路交通情勢調査(H27)をもとに算出

過去：1968年（県内は高速道路なし）
将来：事業中・調査中の路線や箇所等が完成した時点

注) 県内の地点名は、建設事務所名を表示し、位置は合同庁舎所在地とした。
県外の主な地点は、市名を表示し、位置は市役所等の所在地とした。

◆社会情勢の変化と今後強化していくべき課題

信州みちビジョン策定後における長野県を取り巻く社会情勢の変化や最新の県民ニーズを踏まえ、今後の道路施策で強化していくべき課題を次のとおりとします。

社会情勢の変化

- ① 令和元年東日本台風などによる県内の被災
- ② 集団登校中に発生した通学路での事故
- ③ 重要物流道路※の指定、「長野県広域道路交通計画」の策定
- ④ 「長野県自転車の安全で快適な利用に関する条例」の施行、「長野県自転車活用推進計画」の策定
- ⑤ 「長野県ゼロカーボン戦略」の策定
- ⑥ 新型コロナウイルス感染症に伴う急速なライフスタイルの変化
- ⑦ 「歩行者利便増進道路制度(ほこみち制度※)」の創設
- ⑧ 「信州まちなかグリーンインフラ※推進計画」の策定

県民ニーズの把握(R3県政モニター)

H29県政モニターから変化せずニーズの高い項目

- ・生活道路や幹線道路の整備
- ・こまめな道路の維持管理
- ・歩道や自転車道の整備

H29県政モニターからニーズが増加した項目

- ・落石や土砂災害への対策

今後強化していくべき課題

- 自然災害の激甚化・頻発化に伴う災害に強い道づくり
- 身近な生活道路で発生する歩行者・自転車事故の軽減
- 道路インフラの省エネ化・グリーン化
- 人中心とした賑わいのある道路空間の活用

◆社会情勢と課題の整理

今後強化していくべき課題を踏まえ、信州みちビジョン策定時に提示した課題を見直しました。

1 人口減少・高齢化の進行

- 高齢化の進展による歩道整備に対するニーズの高まりへの対応
- 高齢者の救急搬送者数の増加・日常における通院頻度の上昇への対応

2 持続可能な社会への移行

- 道路インフラの省エネ化、都市の郊外化や高い車依存からの脱却による温室効果ガスの削減
- 誰もが利用しやすい道路環境づくり
- コンパクト + ネットワーク※の形成
- まちなかにおけるグリーン化による自然環境や景観への配慮
- 人中心とした賑わいのある道路空間の活用

3 事故・災害・老朽化等に対する安全性の確保

- 事故割合が年々増加する高齢者事故の軽減
- 通学路など身近な道路で発生する歩行者・自転車事故の軽減
- 自然災害の激甚化・頻発化に伴う災害に強いみちづくり
- 道路施設の老朽化に伴う計画的な補修や更新

4 社会の広域化・国際化

- 通勤圏など生活圏域拡大への対応
- 大都市圏へのアクセス性の地域間格差解消
- リニア中央新幹線※開通効果の波及
- インバウンド回復への対応

5 高度情報化社会の進展

- 交通量等のビッグデータ※の道路計画への活用
- ICT ※等を通じた情報収集、自動運転やAI ※(人工知能)技術の活用
- 施工・管理における3次元データの効率的・効果的な活用

6 限られた予算

- 選択と集中による効率的・効果的な事業進捗
- ソフト事業やICT ※等を活用した更なる事業の効率化
- 関係機関との連携による効果の最大化

アンダーラインは今回強化箇所

1 人口減少・高齢化の進行

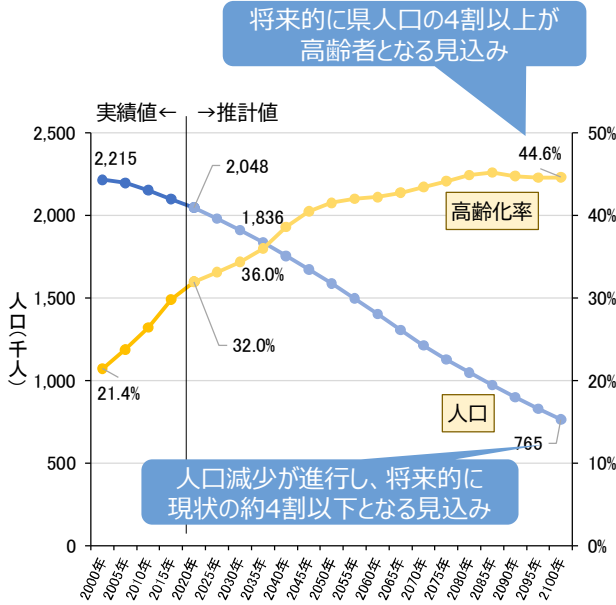
現状

- ・長野県では、早いペースで人口減少、高齢化が進行
- ・搬送者数と高齢者割合の増加

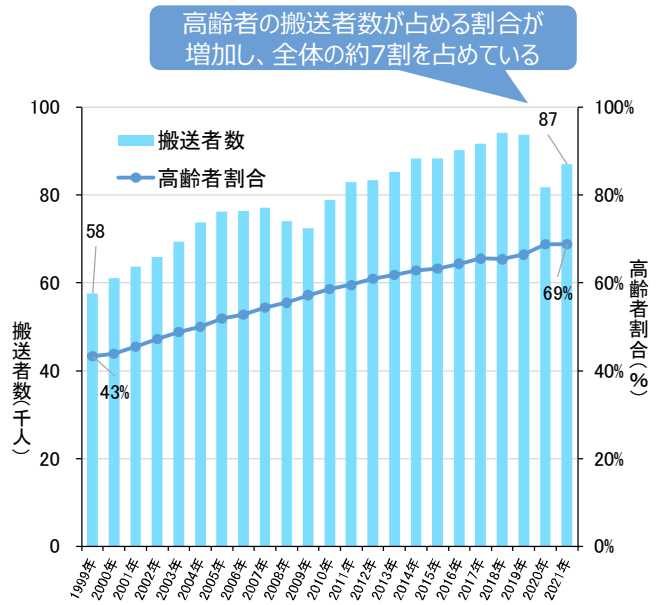
課題

- ・高齢化の進展による歩道整備に対するニーズの高まりへの対応
- ・高齢者の救急搬送者数の増加・日常における通院頻度の上昇への対応

● 人口と高齢化率の推移



● 搬送者数と高齢者割合の推移



※2020年までは国勢調査結果
2025年以降は長野県企画振興部推計

出典：R4消防統計（長野県）

2 持続可能な社会への移行

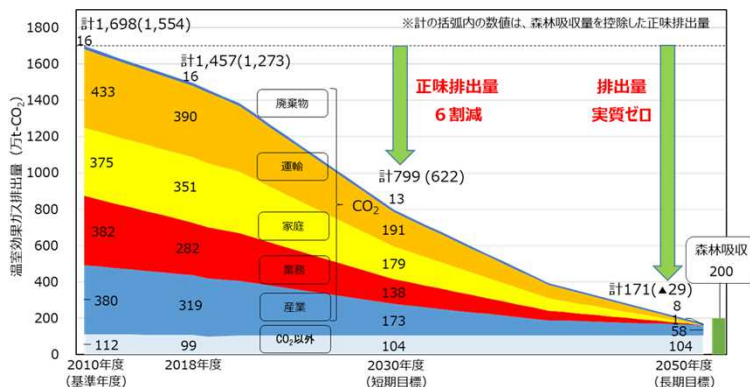
現状

- ・都市の郊外化の進行と高い車依存
- ・本県では2050年度までに二酸化炭素排出量実質ゼロを決意表明
- ・人中心とした道路空間の利用に関するニーズの高まり

課題

- ・道路インフラの省エネ化、都市の郊外化や車依存からの脱却による温室効果ガスの削減
- ・誰もが利用しやすい道路環境づくり
- ・コンパクトシティ化※ + ネットワーク化の形成
- ・まちなかにおけるグリーン化による自然環境や景観への配慮
- ・人中心とした賑わいのある道路空間の活用

● 温室効果ガス正味排出量の削減目標



出典：長野県環境部

● 賑わいのある道路空間の活用



下諏訪町 下諏訪駅前

3 事故・災害・老朽化等に対する安全性の確保

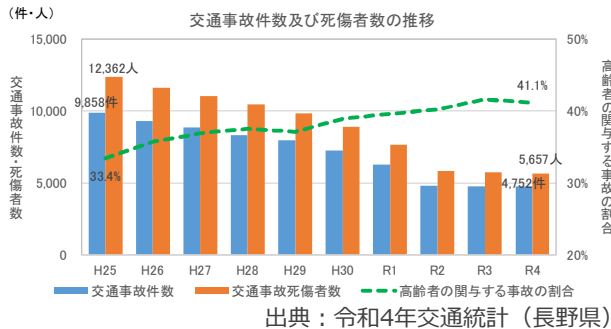
現状

- ・長野県では、事故件数が年々減少傾向にあるが、高齢者事故の割合は増加傾向
- ・近年、通学路など身近な道路での大きな事故が発生
- ・令和元年東日本台風など激甚化する災害により、長野県にも大きな被害が発生
- ・橋梁等の道路施設の老朽化が進行

課題

- ・事故割合が年々増加する高齢者事故の軽減
- ・通学路など身近な道路で発生する、児童をはじめとした歩行者・自転車事故の軽減
- ・自然災害の激甚化・頻発化に伴う災害に強いみちづくり
- ・道路施設の老朽化に伴う計画的な補修や更新

● 交通事故の発生状況



● 災害の発生状況



(主)丸子東部インター線
東御市 田中橋
(令和元年東日本台風)



(国)418号 天龍村 早木戸
(令和2年1月)

4 社会の広域化・国際化

現状

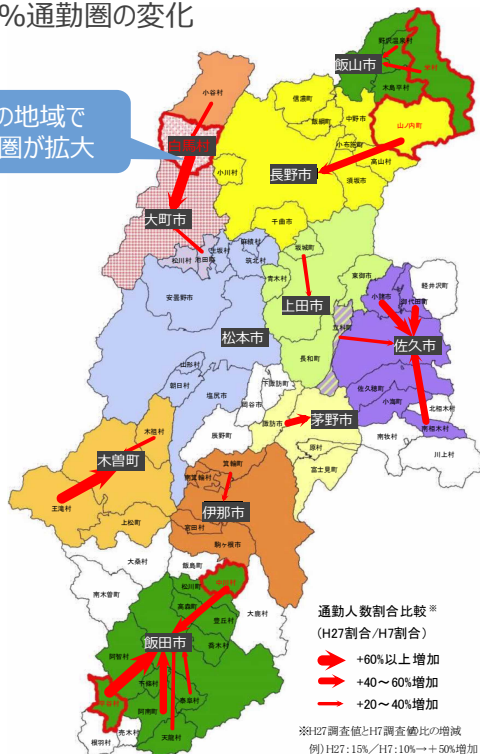
- ・通勤圏などの生活圏域の拡大
- ・大都市圏へのアクセス性に地域間格差が存在
- ・リニア中央新幹線※が開業予定
- ・コロナ禍におけるインバウンドの落ち込み

課題

- ・通勤圏など生活圏域拡大への対応
- ・大都市圏へのアクセス性の地域間格差解消
- ・リニア中央新幹線※開通効果の波及
- ・インバウンド回復への対応

● 10%通勤圏の変化

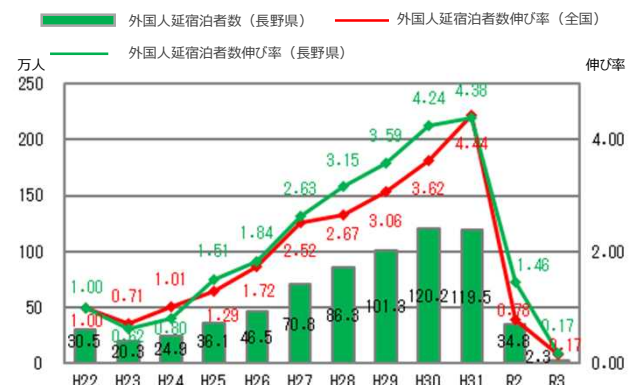
多くの地域で
通勤圏が拡大



● リニア中央新幹線※想定所要時間



● 外国人延泊者数の推移



出典：外国人延泊者数 観光庁利用者統計調査
外国人延泊者数伸び率 長野県観光地利用統計調査

(市町村名) で表示する市町村へ、住民の10%以上が通勤している市町村を同色で着色
(市町村名) は、H7調査とH27調査を比較した結果、新たに10%通勤圏に含まれた市町村

5 高度情報化社会の進展

現状

- ・DX※の進展による超スマート社会※への急速な変化
- ・インターネットを利用した道路情報カメラやSNS等の情報提供環境の発達

課題

- ・交通量等のビッグデータ※の道路計画への活用
- ・ICT ※等を通じた情報収集、自動運転やAI※（人工知能）など新技術の活用
- ・施工・管理における3次元データの効率的・効果的な活用



(国) 256号 飯田市 下久堅バイパス(橋梁設計の3次元データ)

6 限られた予算

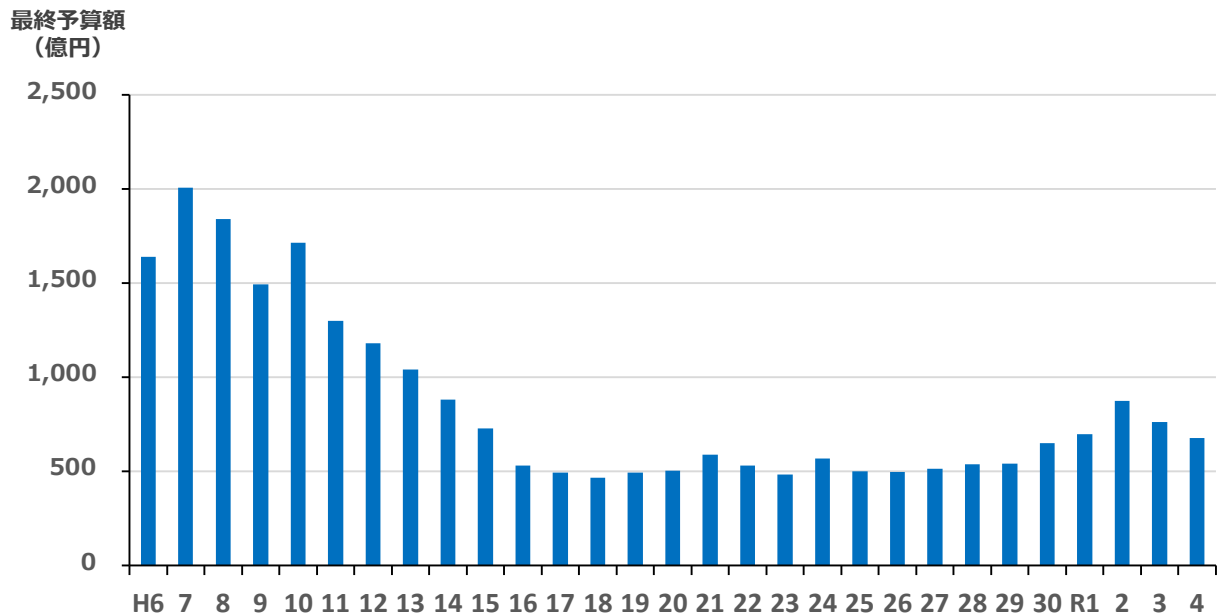
現状

- ・対策が必要な箇所が多くあるが予算制約下において十分な対応ができていない状況
- ・課題を解決するためハード及びソフト事業による一体的な対策を実施

課題

- ・選択と集中による効率的・効果的な事業進捗
- ・ソフト事業やICT ※等を活用した更なる事業の効率化
- ・関係機関との連携による効果の最大化

- 道路関係予算(最終予算額)の推移



出典：長野県建設部調べ